

製品名: Na⁺ CP タイプ II α ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14372**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	

抗原情報

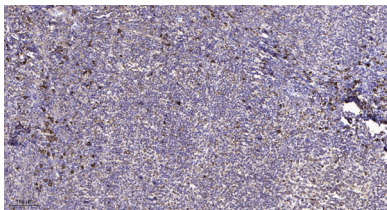
遺伝子名	SCN2A SCN2A; NAC2; SCN2A1; SCN2A2; Sodium channel protein type 2 subunit alpha; HBSC II;
別名	Sodium channel protein brain II subunit alpha; Sodium channel protein type II subunit alpha; Voltage-gated sodium channel subunit alpha Nav1.2
遺伝子 ID	6326.0
SwissProt ID	Q99250
免疫原	ヒト Na ⁺ CP タイプ II α の内部領域から得られた合成ペプチド。

背景

電位依存性ナトリウムチャンネルは、24の膜貫通ドメインを持つ大きな α サブユニットと、1つ以上の調節性 β サブユニットからなる膜貫通糖タンパク質複合体です。ニューロンおよび筋肉における活動電位の発生と伝播を担っています。この遺伝子は、ナトリウムチャンネル α サブユニット遺伝子ファミリーの一員をコードしています。脳内では不均一に発現しており、この遺伝子の変異はいくつかの発作性疾患と関連付けられています。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが複数報告されていますが、これらのバリエーションの一部については、完全長が未解明です。[RefSeq 提供、2008年7月]、疾患: SCN2Aの欠陥は、熱性けいれんを伴う全般てんかん (GEFS+) の原因となる[MIM:604233]。熱性けいれんを伴う全般てんかんプラス (GEFS+) は、不完全浸透と大きな家系内変動を伴う、まれな常染色体優性遺伝性の家族性疾患です。患者は、時に6歳を超えても持続する熱性けいれんや、様々なタイプの無熱性けいれんを呈します。GEFS+は、熱性けいれん、6歳以降の発熱によって引き起こされることが多い全般性けいれん、そして部分けいれんが組み合わさった疾患で、重症度は様々です。疾患: SCN2A 遺伝子の欠陥は、良性家族性乳児けいれん3型 (BFIC3) [MIM:607745]の原因です。BFIC3は常染色体優性遺伝疾患で、生後1年の間に無熱性発作が群発するが、神経学的後遺症は残らない。ドメイン:この配列は4つの内部反復配列から構成され、各反復配列には5つの疎水性セグメント (S1、S2、S3、S5、S6) と1つの正に帯電したセグメント (S4) が含まれる。セグメント S4 はおそらく電圧センサーであり、3つおきに正に帯電したアミノ酸の列が見られる。機能:興奮性膜の電圧依存性ナトリウムイオン透過性を媒介する。膜を挟んだ電圧差に応じて開構造または閉構造をとるタンパク質は、電気化学的勾配に従って Na^+ イオンが通過できるナトリウム選択性チャンネルを形成する。PTM:NEDD4Lによってユビキチン化される可能性がある。エンドサイトーシスを促進する。類似性: ナトリウムチャンネルファミリーに属する。類似性: 1つのIQドメインを含む。サブユニット: ナトリウムチャンネルは、1つの大きなポリペプチドと2~3個の小さなポリペプチドから構成される。この配列は大きなポリペプチドを表す。NEDD4Lと相互作用する。

研究分野

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°Cで一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45分)。